

おっちゃんだより

「野宿者を支援する会」を支援して下さいの方々へ・・・・・・・・

この「おっちゃんだより」を1年間も発行できなくて申し訳ありませんでした。東岡は野宿者支援をやめたのか？と思われた方もあったかもしれません。野宿者を支援する会は今も毎週木曜日に野宿している方を訪ね、話を聞いています。その間、野宿者襲撃事件や、越冬活動準備、名古屋市資源ごみ持ち去り禁止条例が成立した事による野宿の方への対策、名古屋高速道路の工事による野宿している方の移動問題などで、日々走り回っていたので、ついつい皆さまへの報告が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。

今回は裏表の2ページ製作にしましたので、お読みいただけたら幸いです。」



第51回 名古屋越冬活動報告集

2025.11-2026.3



第51回 名古屋越冬実行委員会
2026年7月

年末年始に貧困状態になった人を支える越冬活動の報告集の「第51回越冬報告集」が出来上がりました！

「読んでみたい」と思われる方は無料で郵送いたします。

以下に連絡ください。

- 越冬のメール「Nagoya.etto@gmail.com」
- 〒453-0809 名古屋市中村区上米野3-3-1「いこいの家」気付「越冬実行委員会」あてにハガキを送って下されば

過去の報告集「第48回、49回、50回」もお送りする事が出来ますので、ご連絡下さい。

この活動をして本当に良かったと思ったこと

河川敷に15年程、野宿してる徳川さん（仮名）は、いつも穏やかで礼儀正しく私たちは「ダンディ徳川さん」と呼んで15年前から巡回していました。

2025年6月12日河川敷に徳川さんを訪ねると呂律困難（言葉がもつれて上手く話しが出来ない状態）があり血圧測定したらとても高かったので、「もしかしたら脳梗塞を発症しているかもしれない」と徳川さんを説得してその



徳川さんの血圧測定

場で救急搬送するか？福祉事務所へ行くか？迷いましたが、幸い福祉事務所は車で5分くらいの所なので、車で一緒に福祉事務所へ行きました。生活保護の担当者に血圧が高い事を説明すると親切に対応してくれました。しゃべり辛くいつもと違う徳川さんを見て福祉の担当者は「ここで救急搬

送しましょう！」と救急車を呼んでくれました。私（東岡）も同乗して、藤田保健衛生大学病院へ向かいましたが、救急車の中で徳川さんは再び脳梗塞を起こしたように意識がなくなり、白眼をむき出しました。もう私は徳川さんの名前を呼びながら泣きそうになりました。「もうすぐ着きますよ！」と救急隊員が優しく声をかけてくれました。病院の救命センターへ運ばれすぐに検査と治療をしてくれました。何時間も待って主治医が「何とか命は取り止めました。これから障がいが残るかもしれませんが。」という説明でしたが、「命を助けてくださった事だけで十分感謝です」と医師に深く頭を下げました。それから病院でリハビリをしてもらい歩く事も出来、少しずつ機能回復していく姿に奇跡を感じました。その後、アパート入居を目指す為に植田寮に入所しました。

ところが、一見健康そうに見えても、「高次脳機能障害」があり、お盆を持つ手が震えたり、入居者と同じ事が出来ず、イライラしてしまい、そこにいられなくなって黙ってその施設を8月3日に出て、野宿に戻られました。連絡を受けた私たちは元の野宿していた所に徳川さんを訪ねて

「もう一度やり直そう!」と声かけましたが「もういいよ…」とかたくなに野宿をし始めました。福祉事務所と何度か話し合い、今の野宿の状態から直接アパートへ入れないかと相談したところ、10月に居宅生活の許可が出ました。徳川さんのやる気も出て来て、自分でアパートを探し近隣の病院も受診し、12月15日にアパート入居出来ました。現在は私たちの巡回の途中で毎月アパート訪問をして元気な姿を確認しています。脳梗塞の後遺症もほとんど無く、病院受診し薬も自分で飲まれて血圧も安定しています。

脳梗塞が起きた事是不運でしたが、私たちが丁度訪問した時間帯で発症したのは不幸中の幸いだったと思います

た。又、福祉の職員、救急隊員、病院の方々が親切にして下さり、本当に感謝です。

私たちはこの巡回活動をして本当に良かったと思いました。



今年も NPO 法人「イエローエンジェル」の宗次さんからたくさんの支援物資もらいました!



「アルミ缶持ち去り禁止の条例」のこと

2024年9月「アルミ缶持ち去り禁止の条例を名古屋市が検討している」と新聞に掲載されました。名古屋市の収入になるはずの6000万円が持ち去りにより損失されているというのが原因だということです。

野宿者を支援する会調査によれば現在名古屋市では120名の野宿者がおられます。その内アルミ缶回収を収入源としている人は53名で全体の44%です。条例が成立したらその方がたの生活はどうなるのでしょうか?環境局に要望書を出しても、「条例検討委員会」と言うのがあり、私たち支援者や野宿している当事者はその話合いの中にも入れてくれません。勝手に決められているのです。しかも、アルミ缶回収しないように名古屋市は6人の監視員を市の職員として雇うということです。



アルミ缶持ち去り禁止条例に関して取材を受ける東岡

公務員の給料が月30

万円だとしたら12か月×6名×30万円=2160万円の年間予算を立てているのです。2026年4月1日「資源持ち去り禁止条例」が施行し始めました。野宿の人たちは特別に自分にアルミ缶をくれる人やお店でアルミ缶を譲ってくれる人をさがして必死です。中にはあんなに生き生きとアルミ缶を回収していたのに全くやる気が出なくなってしまった人も増えました。

2026年6月に中間評価を名古屋市が出しました。「アルミ缶回収の4割は持って行かれずに防げました」という記事です。どうやって計算しているのか今度環境局に聞いてみたいと思いますが、6000万円の4割って2400万円ですね。それが持って行かれずに済んだと名古屋市は喜んでいますが、その防ぐ方法に2160万円の予算で人を雇っての事ですね。話はずれますが、2026年9月～開催されるアジア・アジアパラ競技大会の予算は2980億円でどれだけ経済効果があるのでしょうか?なんか、お金の使い道、おかしくないですか?しかもその監視員の態度が悪く取ってもいないのに「お前!今、アルミ缶取っただろう!」と泥棒扱いされます。テレビの取材でも野宿の人を見かけたら「おった!おった!」と上から目線です。この事は今年の12月の名古屋市との交渉時に追及する予定です。まだまだ課題はたくさんあるので、これからも野宿の人、一人一人に寄り添って巡回していきたいと思っています。

編集 後記

以前、ホームレス支援を一緒にしていた歯科医師に「牧さんが現場を大切にしているのは分かるけど、その活動を学会で発表したり、外に向けて発信しないといけないよ!」と何度も言われていました。「はい!しっかりやります!」